

地域だより
県北

邪魔物から宝物へ…プチ雪室製作

県北支部 田端 智樹

県北地域は温暖化とは言っても、場所によれば雪深き所もあります。農産業中心の過疎地で、雪が田畑に積もれば閑散期になってしまう…。そんな邪魔物の雪を逆手にとって、何とか産業に結びつかないかと考えました。安価でしかも素人が施工できる物…プチ雪室を造ってみようということになりました。雪室の保存物の付加価値は多方面で実証されていましたが、果たしてこの地域で、簡単に手に入る材料で安く造って、どこまで保存が効くのか実験する必要があると思いました！

●日 時：2月16日（日）9：00～16：00

●参加者：地元農事法人の方々と地元小学生、会員含め11名

●場 所：庄原市高町

■第1ステップー雪室の本体づくり



内側はカラーコンパネに@100mmスタイロフォーム二重貼りで、雪室本体の箱を造りました。基礎はCBでレベル調整です。底面には雪が解けた場合の排水穴を1カ所用意。雪室の大きさは、内寸1800×1800×H900です。

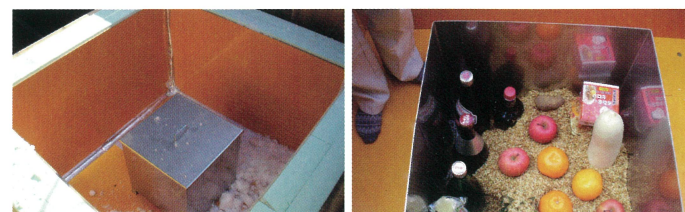
■第2ステップー雪集め



中山峠山頂付近にまで雪を取りに行きました。2m³の雪を人力でトラックに積み込み。

■第3ステップー貯蔵用BOXのセット

雪室内部をアルミシールで隙間を埋め、SUS製500角の貯蔵用BOXを中央にセット。ある意味タイムカプセルですね！腐食を防ぐため、隙間を確保しながら食品を並べました。



■第4ステップー雪室セッティング

組み立てた雪室に雪を投入して、スタイロフォームで蓋をしました。



これまた邪魔物の初殻（すくも）を断熱材として利用して本体周りを覆います。初殻は農事法人「ファームおよう」から提供して頂きました。初殻の厚みは、側面25～40cm・上部は40cmです。

■雨よけシートをかぶせて完成！

7月20日に「開口～実験結果確認日」を企画しています。その頃は真夏…雪が残っていただければいいな～。

興味のある方は、是非ご参加下さい。



表紙写真について

駿台予備学校 広島校

●設計監理／株式会社フジタ広島支店一級建築士事務所

●施 工／株式会社フジタ広島支店

●C M／株式会社ユニヴァーサル

●所 在 地／広島市東区光町

●構造規模／S造（制震構造）地上8階建

●敷地面積／860.39㎡

●建築面積／515.58㎡

●延床面積／3,507.32㎡

●竣 工／2014年1月



光あふれる学校空間

中四国初進出となる大手予備校、駿台予備学校広島校の新築工事である。

生徒たちが毎日行きたくなるような学校にしたいという建築主の想いを、「光あふれる学校空間」というコンセプトでデザインに展開した。

敷地は広島駅北口の再開発ビルの北側、大通りから1本奥へ入った通りにあり、比較的静かな場所に立地している。



外観は街並みに埋もれないよう、周囲とは異質な、ガラスを多用したシャープで上昇感のあるデザインとした。また日没後も生徒たちが安心して通えるよう、屋上フレーム、エントランスポーチ、植栽まわりには明かりを灯した。

内部の共用空間には、瀬戸内の自然をモチーフとしたグラフィックを散りばめ、地域性を感じられるデザインとした。光の降り注ぐ明るい教室、屋上の緑を臨むことのできるホール、清潔感のある共用空間は、生徒たちが1日この校舎の中で快適に学習するため、明るく楽しいイメージの空間とした。

この校舎で過ごした1人でも多くの生徒が、それぞれの目標に向かって巣立っていくことを願ってやまない。

入会金免除キャンペーン実施中!!

広島県建築士会の会員の皆様、この機会に一人1名勧誘運動にご協力ください。

●新規加入者

入会金3,000円 免除

期間：平成26年3月～8月の6カ月間

●入会紹介者（建築士会会員）の所属支部へ

1,000円／人の交付金支給

期間：平成26年3月～平成27年2月の1年間

26年度 定期講習について

当会では、（公財）建築技術教育普及センターが主催する「定期講習」の受講受付、講習運営を行っております。今後のスケジュールは以下のとおりです。

開催日	会 場	受付期間〈開始はいずれも6／2（月）～〉	会場コード
10月 8日（水）	福山商工会議所	～ 9月19日（金）	6D-01
10月22日（水）	広島県情報プラザ	～10月 3日（金）	6D-02
11月19日（水）	広島県情報プラザ	～10月31日（金）	6D-03（DVD講習）
12月17日（水）	広島県情報プラザ	～11月28日（金）	6D-04（DVD講習）
平成27年 1月21日（水）	広島県情報プラザ	～平成27年 1月 6日（火）	6D-05
平成27年 2月18日（水）	広島県情報プラザ	～平成27年 1月30日（金）	6D-06（DVD講習）

ぷろじえくと ニュース

第47回「福山ばら祭」

福山支部

福山支部青年委員会は、第47回「福山ばら祭」に参画します。福山ばら祭は、5月17日（土）、18日（日）の2日間です。

青年委員会の企画イベントは

●ばら公園内でのモノづくり体験イベント

●飲食

●17日（土）夜のキャンドルナイト

5月11日から当日までの公園ライトアップも行っています。是非、会場に足を運んで下さい。

「建築フェスティバル2014」の開催!

広島支部

10月11日（土）～12日（日）、県立産業会館西展示館（広島市南区比治山本町16-31）で、「建築フェスティバル2014」を国土交通省の住生活月間行事と同時に開催します。「ひろしまの気候・文化・環境に配慮したこれからの住まいづくり」をテーマに、建築士の活動の発表や「住まい」にかかわる分野の企業の展示などを行います。今年は、住生活月間行事と同時に開催するため、全国から多くの来場者があります。今後、出展者募集を行いますので、会員の皆様の作品展示をよろしく願います。

安全で安心な住まいづくりをサポートします。



◆ 建築確認・検査

◆ 住宅性能評価

◆ フラット35 適合証明

◆ 長期優良住宅技術審査

◆ 低炭素建築物技術審査

◆ 住宅かし担保責任保険

住宅保証機構㈱（まもりすまい保険）
 ㈱住宅あんしん保証（あんしん住宅瑕疵保険）
 ㈱日本住宅保証検査機構（JIO わが家の保険）
 ㈱ハウスジーマン（ハウスジーマン住宅かし保険）
 ハウスプラス住宅保証㈱（ハウスプラスすまい保険）



指定確認検査機関・登録住宅性能評価機関

株式会社 広島建築住宅センター

URL: <http://www.hkjc.co.jp>

本社 〒730-0013 広島市中区八丁堀 15-10
 TEL(082)228-2220 FAX(082)228-2231
 営業所 〒720-0034 福山市若松町 8-22
 TEL(084)928-3979 FAX(084)928-3974

指定確認検査機関
 （中国地方整備局長指定第1号）

登録住宅性能評価機関
 （中国地方整備局長登録第5号）

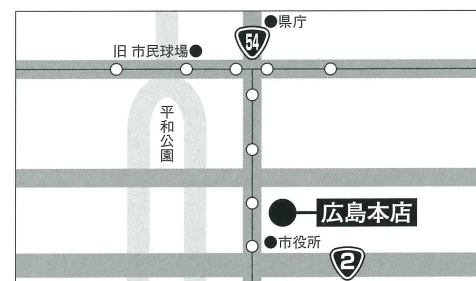
登録建築物調査機関
 （中国地方整備局長登録第1号）



HOUSE PLUS

ハウスプラス中国住宅保証株式会社

〒730-0042 広島市中区国泰寺町1丁目3番32号
 TEL: 082-545-5607(代表) FAX: 082-545-5608



既存建築物の耐震診断・改修計画判定業務を行っています

（既存建築物耐震診断・改修等推進全国ネットワーク委員会加入）

■ 指定確認検査機関
 ■ 登録建築物調査機関
 ■ 住宅瑕疵担保責任保険業務
 ■ 住宅エコポイント関連業務

■ 登録住宅性能評価機関
 ■ 適合証明業務(フラット35)
 ■ 調査診断業務(耐震診断等)

■ 指定構造計算適合性判定機関
 ■ 長期優良住宅認定審査業務
 ■ 耐震診断判定業務

URL <http://www.jesupport.jp/>

皆様に、より良いサービスの提供に努めてまいります



株式会社 **ジェイ・イー・サポート**

代表取締役 石 山 講

本社 〒730-0029 広島市中区三川町7-1

TEL: 082-546-1378 FAX: 082-249-7190

e-mail: mail@jesupport.jp

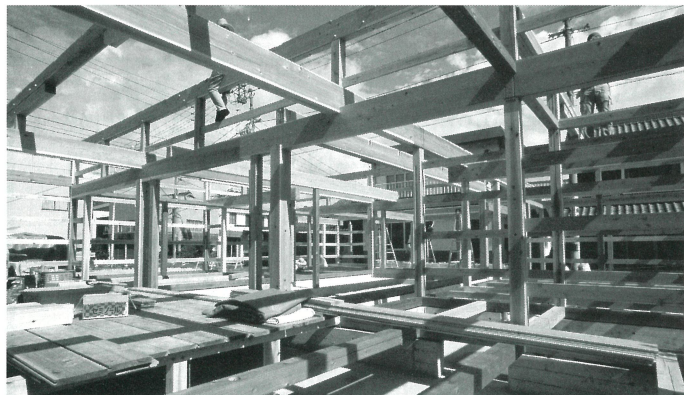
支店: 東京・札幌 営業所: 呉

住宅講演会「もう一度はじめから木造建築を考えてみる」

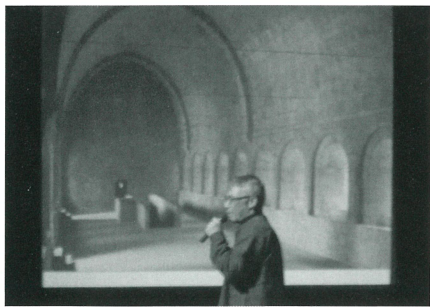
社会活動委員会 住宅研究会 向山 徹

2月9日（日）、国産杉を活用した古くてかつ新しい設計・構法で住宅を中心とする斬新な木組みの空間を次々と創出されている、香川県の六車誠二氏（六車二建築設計事務所）・六車俊介氏（六車工務店）のご兄弟を講師にお招きし、広島県建築士会住宅研究会と広島県木造住宅生産強化推進協議会が連携して講演会を開催しました。多忙な時期ではありましたが、150名近くの方々が足を運び、熱い話に最後まで耳を傾けていました。特に学生の参加者が多く、熱心にメモを取る姿が印象的でした。

お二人のお父さん六車昭氏は、同じ高松の建築家・戸塚元雄氏と共に「木材の乾燥＋手刻み＋土壁」による民家型構法による美しい木組みの住宅を発表されてきました。山の木の状況を見据えた材料管理と継ぎ手・仕口などの約束事の能動的な合理化、設計者と大工の構法の共有化、それまでの伝統構法に見られる職人的な勘に頼るのだけではない明解な木構造の語り口は、私たち木造に携わる各地の設計者・工務店・大工たちに新鮮な驚きと勇気を与えました。



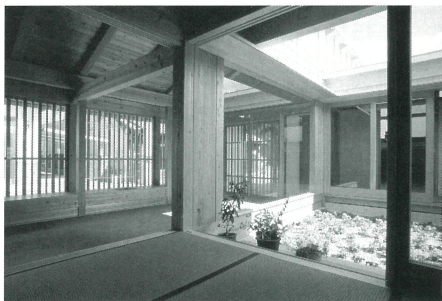
「日建設計」で活躍された誠二さんは、民家型の構法を引き受けながら、現在の日本の木が置かれている状況で木を扱うことはどういうことなのか、日本の木で建築を造ることの意義と方法をさらに深く掘り下げて、木造に対してある一定の距離を取りがちな現代の設計者や若者に対して、「木造って意外と面白いよ」と、オリジナルな視点から木造の姿を解きほぐして見せてくれています。そこには「日建設計」という大組織設計事務所での都市的な建築物の設計から、地方の地元材を使った風土に根ざした建築の設計という転換点にヒントがありそうです。



今回の講演会では、ミース・ファン・デル・ローエのバルセロナパビリオンから始まり、和洋を問わず歴史的な建築に対して素材・構法からの原初的なまなざしを送り、「素材と構法と表現」のバランスを構築することが建築する行為であるというメッセージを、聴衆に熱く投げかけました。木造の講演会にもかかわらず、木造を単なるひとつの構法の中に括らない姿勢が、六車誠二さんの斬新な建築に表現されていることを痛感しました。

その投げかけに対し、基本的な木の性質や素材としての扱い方、継ぎ手・仕口の整理の仕方、現場でのアイデアを共有していく姿勢などを、とつとつと話される弟・俊介さんの語り口は、一つ一つ確かめながら石を積み上げていく職人のような静けさと誠実さに満ち、聞くものを引き込んでいく力を持っていました。

「六車工務店」では、大工が図面・納まり図を自分のノートに日々書きこみ、軸組模型を30分の1のスケールで作成。



材料管理もしながら、建築の軸組に関してはすべて、体に叩き込んでいく方法をとっています。設計者の誠二さんの考えを俊介さんが再構築し、設計者と共に最終的な「素材・構法・表現」にまでもっていくのではないかと感じました。

建築家の歴史的な建造物への深い造詣と建築への情熱、若き大工棟梁の素材や構法に対する誠実なまなざし。ふたりの理想的なコラボレーションを実感する濃密な講演会でした。質疑応答では、「木造建築を危惧している。これからも頑張ってもらいたい」といった声や、若い世代の「建築ってこんなに面白いものとは思わなかった」といったアンケート回答からも、十分に講演会を楽しんでいたのだと思います。これからも、建築士の設計技能の充実と、一般の方々へ建築士の職能を幅広く認知していただくことを目標として、より身近な住宅に関する講演会を企画していきたいと思っています。

地域だより
尾道

地域貢献活動「多門亭再生活動」について

尾道支部 濱田 昌範

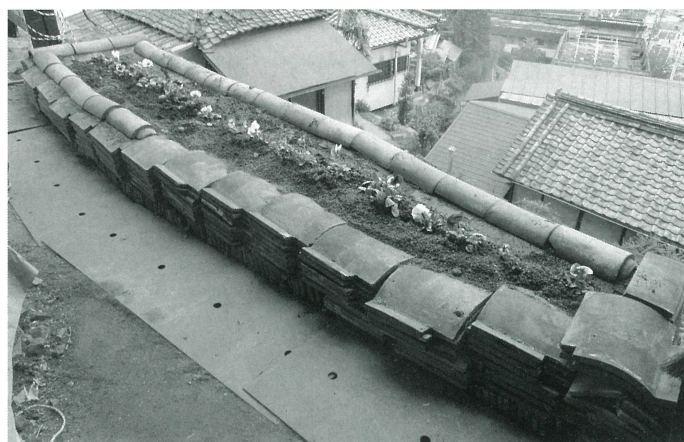
3月2日（日）、「多門亭再生活動」の一環として、現地環境整備と斜面地景観懇談会を開催しました。建築士会会員や一般の方を含め30人が参加。

午前中は現地環境整備ということで、これまでの工事で不要になった割れ瓦や土を搬出したり、使用可能で保存しておいた古瓦を利用して花壇を設置しました。花壇製作は、単に古材の再利用というだけでなく、現在の屋根に葺いている瓦が割れた時などでも、すぐに花壇の瓦を使って代用修復できるというメリットもあります。



午後は斜面地景観懇談会。多門亭のこれからや斜面地の景観保全に対する意見交換会を行いました。まず多門亭再生活動に当初から積極的に先頭に立ち活動してこら

れた元廣元支部長より、これまでの活動内容の報告と、今後についてお話しいただきました。また今後、この多門亭再生活動を引き継いでいただく「Pantanal(株)」の中谷様から、自己紹介並びに今後の活用方法の例や夢、希望について語っていただきました。「NPO テクノレジェンド宝の山」佐藤立美理事長からは、多門亭再生活動での古材並びに小木材を使っての実物大耐震補強工事についてや、斜面地の既存木造住宅の簡易耐震診断による調査について報告がありました。今後は調査回数を増やし、斜面地の耐震化の現状をデータベース化し、斜面地に適した耐震補強方法で地震に備えることで、斜面地の防災や景観保全につなげていければと考えています。



多門亭再生活動も早4年が過ぎ、延べ180人超の方々の支援がありました。老朽化した建物の大掃除から始まり、屋根の葺き替えや減築、改修工事を重ね、地域貢献活動の助成金や尾道市によるまちなみ形成事業補助金などの活用で、古い建物に新たな命を吹き込みました。こうして生きた活用へのバトンタッチができ、建築士会活動として一区切りを迎えられたことは非常に意義深いものです。

◆今後の建築士会の社会貢献のあり方として望まれること

- ・市民との技術力を背景とした信頼で結ばれた「協調」関係
- ・NPO ほか市民活動団体との相互補完による「協力」関係
- ・民間事業者との活用提案や事業化による「協業」関係
- ・地元行政機関との専門家としての「協働」関係

これら全てが詰まったこの活動の成果は、未来に向けて大きな意義を持つものと感じています。

「ベネッセアートサイト直島巡り」

広島支部 柳田 真俊

1. はじめに

2月1日（土）、県外見学会「ベネッセアートサイト直島巡り」に参加しました。直島は現代アートを媒介として島の魅力を発信し続け、奇跡的成長を遂げています。今回、その中でも中心的である家プロジェクト、ベネッセハウスミュージアム、地中美術館、李禹煥美術館を見学しました。27名の参加者がありました。

2. 施設の概要と見学所感

（1）家プロジェクト（自由鑑賞）「ANDO MUSEUM」ほか

広島駅から宇野港に到着後、フェリーに乗り込み、瀬戸内海の景観を堪能しながら直島へ向かいました。

最初は「ANDO MUSEUM」を見学しました。安藤忠雄氏が直島で手掛けたプロジェクトの記録や、直島が歩んできた歴史を展示。気付かずに通り過ぎてしまうほど、町並みにうまく溶け込んでいる印象でした。古民家



の中にコンクリートの空間を封じ込めることで、町並みとの同化を図っています。小ぶりの建物ですが、奥行きに富んだ空間であり、建物のスリットから差し込む光が美しく感じられました。

その後、家プロジェクトを各自、自由に鑑賞しました。歩く度にアートや飲食店などの新しい発見があり、とても楽しめました。

（2）ベネッセハウスミュージアム

落ち着いた雰囲気のレストランで昼食を取り、館内を見学しました。展示スペースにとどまらず、館内のいたるところにアートが展示されていました。また、屋外にもアート作品があり、周辺を散策しました。

ここからは、地中美術館と李禹煥美術館の二手に分かれて見学しました。

（3）地中美術館

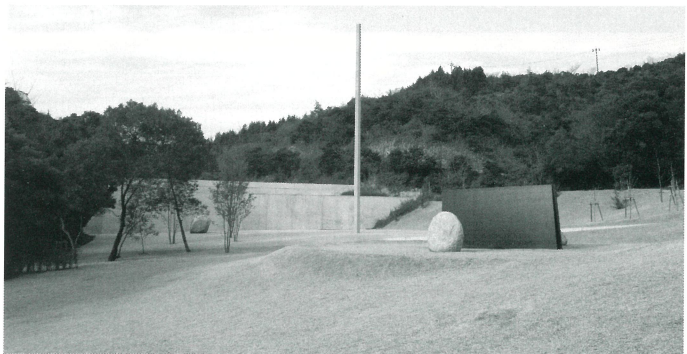
特徴は建築のほとんどが地中に埋まってい外観がなく、建築的ボリュームがほとんどありません。建築と自



然がうまく調和している印象でした。作品の多くは自然を組み合わせており、天候や季節が変われば、空間が変化するところも見どころです。作品を見終わった後にカフェに辿り着くと、初めて瀬戸内海の風景が見えました。また、外に出て景色を楽しむこともできます。

（4）李禹煥美術館

李禹煥にとって初めての個人美術館で、海と山に囲まれた谷間にひっそりと建っていました。外部にあるコンクリートの柱が目を見ますが、これは長い壁横により強調される横の線に対し、縦の線を加えることで空間に緊張感を与えるそうです。外部空間と半地下に造られた内部空間はゆるやかにつながれていて、洞窟に入り込んでいくような印象でした。館内はスタッフに案内していただきました。作品に対する思いや歴史など興味深い解説で、つい時間を忘れてしまいました。



3. おわりに

これまで直島は何度も訪れていましたが、その都度、新しいアートや建物が増えています。それらを通じて、瀬戸内の豊かな景観の再生や歴史の継承について考えさせられる旅でもありました。

今後も有意義な見学会に参加したいと思います。

第5回 省エネ対策講習会

「ハイブリッド給湯器・ダブルソーラーについて」

呉地区支部 福島 仁美

2月14日（金）、第5回省エネ対策講習会を開催いたしました。株式会社ノーリツ西日本支社中四国支店新エネルギー販売グループの木村宏志様を講師にお招きして、生活の中でエネルギーを効率良く、家計や環境に優しく使っていくための、「ハイブリッド給湯システムとダブルソーラーシステム」について、その概要と効率性、環境への影響を中心に講義をしていただきました。



最近よく耳にする「ハイブリッド」という言葉。2つ以上のものを組み合わせて、それぞれのメリットを掛け合わせることで効率の良い運用ができるというもので、

「建築技術者のための耐震技術セミナー」

呉地区支部 武内 盟子

2月28日（金）、㈱エスティー・ワイズの吉野康夫先生を講師にお迎えして、セミナーを開催しました。吉野先生には、昨年2月の1回目で「耐震診断と耐震補強はなぜ必要か？」と題した動機付けを、8月の2回目では「2012年改定版木造住宅の耐震診断と耐震補強」に基づき、実際に診断ソフトを使った診断報告書作成を講習していただき、3回目の今回は、耐震診断の最も重要なポイントとなる事前の現地調査についての講習でした。

先生自身も耐震診断や耐震補強設計を数多く手掛けられていることから、調査が必要な部分や調査方法、注意点など、現場の生の声も聞かせていただきました。先生は、依頼者が安心して住めるよう、耐震補強工事を前提に、診断・補強設計を進められているそうです。

また助成制度を利用する場合、評価点を1.0以上とすることが必要ですが、人命を守るという視点からは1.0未満でも大丈夫なケースがあること、逆に、新耐震の建物でもバランスが悪ければNGのケースがあることなど、今後の課題についての提案もありました。皆さん熱

既に様々な分野においても開発が進んでいます。

ハイブリッド給湯器は、深夜電力を使うことで経済的にもお得な「エコキュート」と、エネルギーロスの少ない「エコジョーズ」のメリットを合わせて開発されたものです。貯湯タンクが90ℓというところに関しては、エコキュートからの発想だと十分ではない印象を受けましたが、エコジョーズの機能がそれを可能にするということです。また、太陽光から電気を作り、熱からお湯を作るダブルソーラーシステムは、無限の太陽エネルギーを余すことなく活用するシステムであり、ハイブリッド給湯器もダブルソーラーも、快適さや便利さを踏まえた省エネシステムだということが分かりました。この講習会により、エネルギーの使い方や、将来的な電気事情にも関心が向くようになりました。私たちの生活に直結するものだからこそ、賢く選んでいきたいと思います。

今年度の省エネ対策講座は今回が最終回でした。各回ごとに担当を持ち回りにしたことで、司会や設営など、講習会の一連の流れを経験することができ、充実した活動になりました。

心に聴講され、大変有意義な時間となりました。

その後、呉市建築指導課から、耐震改修促進法の改正と広島県内市町の耐震関連助成制度についての情報提供がありました。今回の法改正では、要緊急安全確認大規模建築物が定められ、平成27年末までにその耐震診断結果を特定行政庁に報告することが義務化され、さらにその結果が公表されるそうです。一方で耐震診断に対する手厚い助成制度も実施され、建物所有者は1/6の費用負担だけで耐震診断が可能になるそうです。



ストック活用が叫ばれる今、さらに耐震診断や耐震補強の義務化の枠は広がるものと思われ、必然的に、耐震に関連する建築士の活躍の場も増えることと思います。